

2012年米国で流行したミドリカメやヒヨコのサルモネラ感染症

今回は食中毒ではありませんが、サルモネラによる感染症について考えてみます。米国では、昨年から今年にかけてカメやヒヨコによるサルモネラ感染症のアウトブレイクが起きています。（国立医薬品食品衛生研究所発行「食品安全情報」より）

爬虫類（カメ、ヘビ、トカゲなど）や両生類（カエルなど）、鶏やヒヨコ、その他の家禽類は、人のサルモネラ症の感染源となります。

特に、ミドリガメや小型のカメ（甲羅の長さが4インチ【約10cm】未満）は、小児のサルモネラ症の感染源となります。米国の食品医薬品局（US FDA）はミドリガメや小型のカメの販売および出荷を1975年に禁止しました。しかし、販売が禁止されているにもかかわらず、いまだに、米国では年間1,000万匹が養殖され、日本をはじめ各国に多くのミドリガメや小型のカメを輸出しています。

米国で多発する小動物によるサルモネラ感染症

●カメのサルモネラ汚染

カメなどはサルモネラを保菌していても外観には異常がありません。これらの動物は排泄物中にサルモネラを排出し、排出されたサルモネラによって動物自体やその生息環境が汚染されます。水槽で飼育されている場合は水がサルモネラに汚染され、ヒトに感染することがあります。

昨年から今年にかけて、米国の37州およびワシントンD.C.では、小型のカメまたはその飼育環境との接触に関連してサルモネラに感染した患者計347人が報告されました。

患者の70%が発症前にカメに触れるなどしており、その90%が小型のカメでした。小型のカメの購入先は33%が露店、11%がペットショップでした。小型のカメに触れた患者の大多数が露店からカメを購入していたため、カメの由来を特定するのは困難でした。

●鶏などの家禽類

サルモネラ感染症は、汚染された食品だけでなく動物との接触がその原因となることもあります。特定の種類の動物との接触により、多くのサルモネラ症患者が発生しています。

米国では、2012年に生きた家禽類に関連したサルモネラ感染症が流行し、過去最多となる年間8件発生し、これにより450人を超える患者がありました。また、小規模飼育（backyard flock）で飼われていたヒヨコで、ニューヨーク、オハイオなどの27州で、195人が発症し、2人が死亡した事件が発生しています。発症者の33%は10歳以下の小児です。これは、特定の養鶏場で飼育され通信販売で購入したものでした。

ヒヨコ、アヒルのヒナ、およびその他の家禽類はサルモネラ菌に汚染されている可能性があります。生きた家禽類は、外見は健康で清潔であっても糞便や体表（羽、脚、くちばしなど）がサルモネラ菌に汚染されている場合があります。サルモネラ菌は、人に感染すると下痢や発熱など重篤な症状を引き起こすことがあります。特に、乳幼児、高齢者および免疫機能低下者では、重症化する可能性がさらに高くなります。

サルモネラ感染症の症状及び予防法

●症状

最も普通にみられるのは急性胃腸炎です。通常 8～48 時間の潜伏期を経て発病しますが、3～4 日後に発病するものもあります。

症状はまず悪心および嘔吐で始まり、数時間後に腹痛および下痢を起こします。下痢は 1 日数回から十数回で、3～4 日持続します。38℃以上の発熱が特徴です。

38℃以上の発熱があり、1 日 10 回以上の水様性下痢、血便、腹痛などを呈する場合は、重症なので至急医療機関を受診します。対応が遅れると、小児では意識障害、痙攣および菌血症、高齢者では急性脱水症および菌血症を起こすなど急速に重症化してしまいます。

●サルモネラ感染症の予防法

<カメ類>

★飼育時の注意：カメなどの八虫類の多くはサルモネラに感染しており、サルモネラを含む糞便を排泄していることから、飼育水などには多量のサルモネラが存在する可能性があります。これらは人のサルモネラ症の感染源となりますので、飼育水を交換する場合は、食品や食器を扱う流し台などを避け、排水により周囲が汚染されないよう注意することが必要です。

また、飼育中の八虫類を飼育槽から出して自由に徘徊させたり、台所等の食品を扱う場所に近づけたりしないように注意することも重要です。

★触った後は：カメなどの八虫類をはじめ、動物を触った後には必ず十分に手指を石けんを用いて洗浄してください。

★ミドリガメからサルモネラを除菌できるか：サルモネラに感染したカメに抗生物質を投与して除菌を試みた実験によると、一時的にサルモネラの排出が停止したかのように見えても完全にはカメの体内から除菌することができなかつたと報告されています。カメからサルモネラを除菌することはできないので動物の飼育環境を衛生的に保つことを心がけてください。

★保育園などでは

① ミドリガメなどは飼うのを止めてほしいのですが、すでに飼育している場合は、水槽、容器などの設備や用具は定期的に掃除し、清潔にします。飼っているカメは捨てないでください。生き物を飼い始めた場合、最後まで飼いつける責任を持たなければなりません。どうしてもできない場合は、責任を持って、きちんと飼える人へ譲渡して下さい。

② 園児たちには、カメなどにできるだけ触れさせないようにします。

③ 触れた場合は必ず手洗いします。園児などの手洗いは保育士等大人が確認します。

<鶏やヒヨコなど>

① 生きたヒヨコや鶏などに触った後は、直ちに手指を石鹸と水で十分に洗浄します。

② 子どもの手洗いは、必ず大人が確認します。

③ 屋外でのヒヨコや鶏を飼育するのに使う檻、餌・水の容器などの設備や用具は毎日掃除し、清潔にします。

④ 保育室、トイレ・浴室、台所などの食品・飲料を調理・提供・保存するエリア、および屋外でもテラスなどにはヒヨコなどを入れないようにします。

ヒヨコ、アヒルのヒヨコ、ミドリガメ (CDCの写真より)



FDA banned the sale and distribution of small turtles with a shell length of less than 4 inches as pets in 1975.

FDAでは、1975年から4インチ以下の小さいカメ類はペットとして販売や配布することを禁止しています。